



日本看護系学会協議会

ニュースレター

第 11 号

2009年5月30日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒104-0044

東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

FAX : 03-5565-1626

E-mail : jana-office@slcn.ac.jp

日本看護系学会協議会の意義と 更なる発展を期して

日本看護系学会協議会副会長

日本学術会議連携会員 金川克子



今期最後のニュースレターです。

少し古い話になりますが、本協議会は18期の日本学術会議の看護学研究連絡委員会(看護学研連)の発足を契機に、その活動支援を目標の一つとして平成13年9月に設立され、7年目になっています。その間日本学術会議法の一部改正に伴う改革により19期の看護学研連は終了(平成17年10月)となり、20期(平成17年10月)より看護界からは南裕子日本学術会議会員や、相当数の連携会員が選出され、現在は21期がはじまり、引き続いて活発な活動が胎動しているように思います。

本協議会は役員選出規程によって選出された役員のもとで、平成18年4月より新しくスタートをいたしており、今年度でその任期が終わり、21年度より次の体制による活動が期待されております。

本協議会は規程に示されているように独自の活動は勿論ですが、指名理事に日本学術会議会員が加わり、日本学術会議(特に看護学関連の課題)とは、例えばシンポジウムの共催のように相互に情報の交換や連携・協力を行ない、社会への発信や看護学の発展に寄与していると思います。

このような本協議会の動きは、会員学会の活動を通してなされており、看護学の学術的なエネルギーの結集ともいえ、看護界にとっても意義ある位置づけと自負していますが、外からの評価も見据えることも必要かと思えます。

最近の動きでは、日本学術会議の健康・生活科学委員会・基礎医学委員会合同に中にあるパブリ

ックヘルス科学分科会(筆者も所属)では、本協議会のニュースレターの紹介や設立経緯の説明等もなされ、これらを参考にしながら公衆衛生関連学協会協議会を昨年9月に設立にしています。同協議会の平成21年3月の総会では21の学協会の参加があると示されており、日本地域看護学会はこれに参加しているが、母性衛生、小児科学・保健、国際保健医療、健康教育、公衆衛生等多くのジャンルの学会との連携・協力関係を取りながらパブリックヘルス科学の発展に結び付けようとしていると思われます。すなわち、本協議会が他領域から評価されている一例かと思えます。

さて、看護学は新しい学問と云われつつ、看護系大学・大学院の数は毎年増加しているのを見れば、看護学独自の知識・技術体系の蓄積が活発となっていると考えられ、その適用をめぐる実践の場での看護職の機能・役割、資格の課題も当然浮揚してきます。

新しい課題にむけた知見の探求に向けて、関心のある仲間による研究会や学会の立ち上げが今後多くなると予測されます。個々に解決できる課題もありますが、同様の問題意識や研究課題を持っている学会間の交流や連携・協力により共通の課題や大きな問題にとりくめられると思われます。構成員である学会も本協議会を充分利用いただき、お互いが連携して看護学の発展にむけて輪を広げていくことを期待いたします。

シンポジウム「看護の役割拡大に向けてのイノベーション NO. 2」報告

企画・広報担当理事 川口 孝泰、野嶋 佐由美

平成 20 年 12 月 14 日（日）に福岡国際会議場において、日本看護系学会協議会、日本学術会議健康生活科学委員会看護学分会の共催、日本看護科学学会第 28 回学術集会の後援のもとで、2 度目の「看護の役割拡大に向けてのイノベーション」と題したシンポジウムが行われました。第 1 回目は、2008 年 6 月 13 日に日本学術会議講堂で行われ、司会を南裕子氏、シンポジストに井部俊子氏、山本あい子氏、金川克子氏、小松浩子氏、太田喜久子氏の 5 名を迎え、活発な議論が行われました。第 1 回目では、看護師が現行制度下での解釈によっては、今後、追加教育を行うことによって、看護師の役割拡大が大いに期待でき、健康の危機に直面している国民に対して看護職が十分に貢献できる方向性が示されました。さらには大学院教育での高度実践看護師の育成によって、更なる可能性が広がることも討議されました。このことの詳細については、看護系学会協議会のホームページで公開する予定です。

これらの討議を受け、日本学術会議で検討されている看護師の役割拡大の取り組みの内容も含めて、引き続き第 2 回目のシンポジウムが行われました。日本学術会議においては、長期的な視点で持続可能な医療を構築するために、医療のイノベーション検討委員会を中心に検討し「信頼に支えられた医療の実現 医療を崩壊させないために」という政府への要望を 2008 年 9 月に出しました。また日本学術会議の看護学分会では「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」< <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/index.html> > という提言を平成 20 年 8 月 28 日、健康・生活科学委員会（看護学分会）から発表しました。

今回のシンポジウムでは、第 1 回目のシンポジウムの討議内容をも踏まえ、とくに政策と学術の最新の動きを、国民の健やかな暮らしを保障する医療改革に向けて、看護が担うべき役割・自律的判断の拡大について討議がなされました。今回の司会は、太田喜久子氏（日本看護系学会協議会会長、慶應義塾大学看護医療学部教授）、シンポジストは、野村陽子氏（厚生労働省 看護課課長）、南裕子氏（日本学術会議会員、看護学分会委員長、近大姫路大学学長）、片田範子氏（日本小児看護学会、兵庫県立大学看護学部教授）田中美恵子氏（日本精神保健看護学会、東京女子医科大学看護学部教授）の 4 氏が登壇しました。

まず、野村陽子氏が「看護行政における看護の役割と責任の拡大について」と題した報告がなされました。内容は、資格の定義と業務についてのこれまでの行政解釈について報告されました。今後の展望として看護の専門性や自律性を高め、とくにチーム医療の推進、医療安全の確保、何よりも国民の QOL の向上に資する貢献に向け、行政も全力で取り組んでいるとの報告がなされました。

次に日本学術会議会員で、看護学分会の委員長である南裕子氏が、「日本学術会議看護分会提言：看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」と題して報告されました。まず、日本学術会議における看護分会の位置づけについて説明された後に、関連する医療系の検討委員会の紹介がなされ、今後の医療の充実のためにも看護職の役割拡大が学術的にも急務であることを述べられました。そのための方策として、とくに高度看護実践家の育成教育の必要性を説くと同時に、改めて看護のケアとキュアの統合について、その哲学的位置づけについても言及されました。とくに APN のコア・コンピテンシーを紹介しながら、今後の日本における看護実践家の在り方について、具体的な提言を述べられました。

片田範子氏は、「小児看護における看護の役割と責務の拡大」について小児医療の実態、とくに先進国型医療と成熟経済型医療の実態を比較しながら、小児医療の今後の展望について述べられました。とくに、現代的に急務の課題である小児医療提供システムの必要性について、地域医療の在り方を含めて提言し、その拠点形成の緊急性について述べられました。最後に田中美恵子氏が「精神看護における看護の役割拡大と責務の拡大」と題して精神保健医療福祉を巡る状況、とくに、そのサービスの実情と課題について報告されました。精神保健医療福祉において、看護師の役割拡大は喫緊の課題であり、専門看護師への期待も含めた将来への展望について述べられました。

最後に質疑応答がなされ、会場からも看護師の役割拡大と、専門看護師教育の必要性について、大きな期待が寄せられました。これらの内容の詳細については、第 1 回のシンポジウムと併せて看護系学会協議会のホームページで、21 年度初旬にアップする予定ですので、よろしくお願いたします。

診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業

診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業(以下、モデル事業)は、医療の質と安全性を高めていくために、診療行為に関連した死亡について、解剖所見と専門的な調査分析とに基づき、専門的・学際的に検討され発生予防・再発防止を目的として行われている。日本内科学会に中央事務局を置き、札幌、宮城、茨城、東京、新潟、愛知、大阪、兵庫、岡山、福岡の10地区で医師・弁護士を主な委員として調査分析が実施されてきた。

日本看護系学会協議会は、より広く調査・分析を行うために、このモデル事業への協力の要請を受け、会員学会に協力を諮ったところ19学会から協力の意向が示された。2月8日(日)午後13:00 - 15:00に聖路加看護大学 2号館で15の協力学会が出席し、説明会を開催した。モデル事業の概要や、評価委員の仕事の内容などについて、モデル事業中央事務局次長加瀬沢氏、日本看護協会常任理事永池京子氏(厚生労働省「診療行為に関連した死亡に係る死因究明等の在り方に関する検討会」委員)、厚生労働省医政局医療安全専門官金居久美子氏から説明を受けた。

3月末までの短期間であったにもかかわらず、各学会の迅速な対応で99名の看護系評価委員候補者の推薦を得ることができ、4月下旬に10の地区事務局に登録された。このことにより、平成21年度からモデル事業の対象となる事例が発生した場合には、作成した看護系評価委員のリストから専門領域などを考えて看護系協議会で人選し連絡をし、死因の究明と再発防止のための分析・評価に参画することになった。5月下旬には、この手続きに則り、看護系評価委員が委員会に参画している。

今後、このモデル事業は法制化して継続する意向があり、当初、平成22年3月末までの予定であったが、法制化されるまで期限が延長される見通しである。

日本看護系学会協議会では、国民が安心して医療を受けられるようにしていくために、医療事故の原因を究明し、適切な対応策を立て、患者やその家族のみならず、社会に対しても重要な情報提供を図り、医療の透明性を高める事業に、看護学の社会的貢献の一環として取り組んでいきたい。

(モデル事業担当 手島 恵)

診療行為に関連した死亡調査分析モデル事業 : <http://www.med-model.jp/jigyoku.html>
日本看護系学会協議会モデル事業協力学会 19学会

聖路加看護学会	日本小児看護学会
日本家族看護学会	日本助産学会
日本がん看護学会	日本新生児看護学会
日本看護科学学会	日本腎不全看護学会
日本看護管理学会	日本赤十字看護学会
日本看護技術学会	日本糖尿病教育・看護学会
日本看護診断学会	日本母性看護学会
日本クリティカルケア看護学会	日本慢性看護学会
日本手術看護学会	日本老年看護学会
日本循環器看護学会	

平成21 - 23年度 日本看護系学会協議会役員選挙 結果報告

29名の推薦者で被選挙人名簿を作成した。投票31通(無効票6通、有効票24通、白票1通)で、役員9名、監事2名が選出された。選挙管理委員会から、今後、選挙の公正を期すために、同姓同名被選挙人の取り扱いなどの検討課題が報告された。平成21年6月12日の総会で平成21-23年度役員として承認される。

NURSING SCIENCE CAFÉ 事業

市民に開かれた新しい科学技術のあり方が求められるとともに次世代の育成もその学術団体の責務と考えられるようになってきている。そこで、日本看護系学会協議会では市民との対話や、次世代を担う人が看護学について情報を得る機会を提供することを目的としてNursing Science Caféの支援を行っていくことが役員会で提案され、日本学術会議看護学分会との連携事業として位置づけられた。

日本看護科学学会では2007年からNursing Science Caféを社会貢献の一環として学術集会に取り入れてきた。昨年度は、日本がん看護学会が研究成果をもとにした市民との対話型のNursing Science Caféを実施した。今年は8月に日本看護研究学会がこの事業を企画しているところで、今後この事業が発展し各々の会員学会の特徴にあわせて実施されることで、看護の取組が一般市民に可視化され、次世代の育成に貢献することが期待されている。

企画や運営についてNursing Science Café事業の支援が必要な場合には、日本看護系学会協議会事務局までご連絡ください。

日本看護系学会協議会会員名簿（平成21年5月30日）

会 員 名	会 員 名
・ 高知女子大学看護学会	・ 日本在宅ケア学会
・ 聖路加看護学会	・ 日本手術看護学会
・ 千葉看護学会	・ 日本小児看護学会
・ 日本家族看護学会	・ 日本循環器看護学会
・ 日本看護科学学会	・ 日本助産学会
・ 日本看護管理学会	・ 日本新生児看護学会
・ 日本看護技術学会	・ 日本腎不全看護学会
・ 日本看護学教育学会	・ 日本精神保健看護学会
・ 日本看護教育学学会	・ 日本赤十字看護学会
・ 日本看護研究学会	・ 日本地域看護学会
・ 日本看護診断学会	・ 日本糖尿病教育・看護学会
・ 日本看護福祉学会	・ 日本難病看護学会
・ 日本看護歴史学会	・ 日本不妊看護学会
・ 日本がん看護学会	・ 日本母性看護学会
・ 日本救急看護学会	・ 日本慢性看護学会
・ 日本クリティカルケア看護学会	・ 日本ルーラルナース学会
・ 日本災害看護学会	・ 日本老年看護学会

【役 員】

会 長 太 田 喜久子
 副会長 金 川 克 子
 副会長 小 松 浩 子
 理 事（会 計） 亀 岡 智 美
 理 事（企画・広報） 川 口 孝 泰
 理 事（会 計） 小 山 眞 理 子
 理 事（庶 務） 田 代 順 子
 理 事（庶 務） 手 島 恵
 理 事（企画・広報） 野 嶋 佐 由 美
 理 事（庶 務） 松 谷 美 和 子*
 理 事（学 術 会 議） 南 裕 子
 監 事 川 嶋 み どり
 監 事 佐 藤 禮 子

（アイウエオ順）

- 編集後記 -

平成18年度～20年度の3年間、皆様にニュースレターを紙面でそしてホームページ上で日本看護系学会協議会の情報をお送りしました。現在、本学会協議会は自我を持った3歳児さながら、日本の学術的な団体コミュニティーメンバーとして、日本学術会議の協力団体として、医療安全全国共同行動の参加団体として、「医療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」として活動をはじめています。そして、看護系の研究者が、より良い研究活動を推進するために科学研究費申請枠拡大推進に関する活動等始めています。より強力な事務局体制が必要になっていると実感するところですが、新理事会のもとさらに充実した協議会に発展に期待して、新事務局にバトンを渡したいと思っております。

（庶務担当理事 田 代）

学 会 名	理 事 長	学 会 連 絡 先					宛先 (担当者)	ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会 TEL	学会 FAX	学会 E-mail		
1 高知女子大学看護学会	松本 女 里	781-0111	高知県高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-5524	(088)-847-5524		松本 女 里	http://www.kochi-wu.ac.jp/~nsgakkai/index.html
2 聖路加看護学会	山田 雅 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1	(03)-3543-6391	(03)-5565-1626		山田 雅 子	http://sinr.umin.jp/
3 千葉看護学会	宮崎 美砂子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内		(043)-226-2421		増島 麻里子	http://cans.umin.jp/
4 日本家族看護学会	石垣 和 子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部訪問看護学 教育研究分野内	(043)-224-6805	(043)-224-6805	family_chiba_u_2007@yahoo.co.jp	石垣 和 子	http://square.umin.ac.jp/jarfn/
5 日本看護科学学会	南 裕 子	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	(03)-5805-1280	(03)-5805-1281	jans-office@umin.ac.jp	南 裕 子	http://jans.umin.ac.jp
6 日本看護学教育学会	佐藤 禮 子	105-0012	東京都港区芝大門2-12-6 芝ハタビル402	(03)-5472-7455	(03)-5472-7465	jimukyoku@jane-ns.org	佐藤 禮 子	http://www.jane-ns.org
7 日本看護管理学会	鶴田 恵 子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内 日本看護管理学会事務局	(03)-3409-1290	(03)-3409-1290	janap@redcross.ac.jp	鶴田 恵 子	http://janap.umin.ac.jp
8 日本看護技術学会	小坂橋 喜久代	371-8511	群馬県前橋市昭和町3-39-22 群馬大学医学部保健学科 統合医療プロジェクト室内	(027)-220-8907	(027)-220-8907	jsnas@health.gunma-u.ac.jp	小坂橋 喜久代	http://www.jsnas.jp/
9 日本看護教育学会	永野 光 子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部看護学教育 教育研究分野気付	(043)-226-2397	(043)-226-2397	jasne-office@umin.ac.jp	舟島 なをみ	http://jasne.umin.jp
10 日本看護研究学会	山口 桂 子	260-0015	千葉県千葉市中央区富士見2-22-2 富士ビル6階	(043)-221-2331	(043)-221-2332	jsnr@bridge.ocn.ne.jp	山口 桂 子	http://www.jsnr.jp
11 日本看護診断学会	江川 隆 子	160-0022	新宿区新宿1-15-11 イマキレビル桐グローバルエクス プレス・国際会議センター内	(03)-3352-6223	(03)-3352-5421	jsnd@convention-access.com	藤村 龍 子	http://jsnd.umin.jp/
12 日本看護福祉学会	岡崎 美智子	607-8175	京都市山科区大宅山田町34 京都橋大学看護学部内	(075)-574-4251	(075)-574-4251	okazaki@tachibana-u.ac.jp	岡崎 美智子	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
13 日本看護歴史学会	芳賀 佐和子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0613	(03)-3409-0589	yamazaki@redcross.ac.jp	山崎 裕 二	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
14 日本がん看護学会	佐藤 禮 子	650-8530	神戸市中央区港島1-3-6 兵庫医療大学看護学部内	(078)-304-3000	(078)-304-2714		鈴木 久 美	http://jscn.umin.jp
15 日本救急看護学会	中村 恵 子	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 樹へるす出版事業部内	(03)-3384-8030	(03)-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp jaen-adm@umin.ac.jp	中村 恵 子	http://jaen.umin.jp
16 日本クリティカルケア看護学会	井上 智 子	113-8519	東京都文京区湯島1-5-45 医科大学大学院保健衛生学研究科 先端医療緩和ケア看護学分野内		(03)-5803-0156		井上 智 子	http://jaccn.umin.jp/
17 日本災害看護学会	山田 覚	781-0111	高知市池2751-1 高知女子大学看護学部内	(088)-847-8705	(088)-847-8705	takezaki@cc.kochi-wu.ac.jp	竹崎 久美子	http://www.jsdn.gr.jp/
18 日本在宅ケア学会	白澤 政 和	105-0001	東京都港区虎ノ門3-7-2 樹ワールドプランニング内	(03)-3431-3715	(03)-3431-3325		白澤 政 和	http://plaza.umin.ac.jp/~jahhc/
19 日本手術看護学会	久保田 由美子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	(03)-3813-0485	(03)-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正 行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
20 日本循環器看護学会	井部 俊 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学 井部俊子研究室内	(03)-5550-2274	(03)-5550-2274	office@jacn.jp	滝口 珠 子	http://janap.umin.ac.jp
21 日本小児看護学会	片田 範 子	166-8532	東京都杉並区和田3-30-22 大学生協学会支援センター内 日本小児看護学会事務局	(03)-5307-1175	(03)-5307-1196	jschn@univcoop.or.jp	片田 範 子	http://jschn.umin.ac.jp/
22 日本助産学会	堀内 成 子	111-0054	東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階	(03)-3865-3032	(03)-3866-3032	jam1987@ninus.ocn.ne.jp	松岡 恵	http://square.umin.ac.jp/jam/
23 日本新生児看護学会	横尾 京 子	734-8553	広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科内	(082)-253-4636	(082)-253-4636	yokoo@hiroshima-u.ac.jp	藤本 紗央里	http://square.umin.ac.jp/~shinseij/
24 日本腎不全看護学会	水附 裕 子	231-0013	神奈川県横浜市住吉町1-4 第3白井ビル5-A	(045)-226-3091	(045)-226-3092	uda-jann@yk.rim.or.jp	宇田 有 希	http://www11.ocn.ne.jp/~jann1/
25 日本生殖看護学会	森 明 子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加看護大学内 日本生殖看護学会事務局	(03)-6226-6380	(03)-6226-6380	jsin@slcn.ac.jp	森 明 子	http://jsin.umin.jp
26 日本精神保健看護学会	田中 美恵子	169-0075	東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文庫印刷社内	(03)-5389-6254	(03)-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	永井 優 子	http://www.japmhn.jp/
27 日本赤十字看護学会	新道 幸 恵	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	(03)-3409-0722	(03)-5485-5777		守田 美奈子	http://plaza.umin.ac.jp/jrcns/
28 日本地域看護学会	小西 美智子	501-6295	岐阜県羽島市江吉良町3047-1 岐阜県立看護大学内 日本地域看護学会	(058)-397-2311	(058)-397-2311	konishi@gifu-cn.ac.jp	小西 美智子	http://jachn.umin.jp/
29 日本糖尿病教育・看護学会	嶋森 好 子	116-0003	東京都荒川区南千住7-24-24-822 日本糖尿病教育・看護学会事 務局内		(03)-3802-0860	jadenfish2008@yahoo.co.jp	嶋森 好 子	http://jaden.umin.ac.jp/
30 日本難病看護学会	牛込 三和子	183-8526	東京都府中市武蔵台2-6 東京都神経科学総合研究所 難病ケア看護研究部門内	(042)-325-3881	(042)-328-7311		牛込 三和子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
31 日本母性看護学会	高橋 眞 理	228-0829	神奈川県相模原市北里2-1-1 北里大学看護学部内 日本母性看護学会 事務局	(042)-778-9826	(042)-778-9826	jsmn@mcn.ac.jp	竹 明 美	http://www.mcn.ac.jp/bosei/
32 日本慢性看護学会	野並 葉 子	673-8588	兵庫県明石市北王子町13-71 兵庫県立大学明石キャンパス	(078)-925-9447	(078)-925-0878	chronic.n@cnas.u-hyogo.ac.jp	野川 道 子	http://jscicn.com/
33 日本ルーラルナース学会	野口 美和子	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	(0285)-58-7512		ynagai@jichi.ac.jp	永井 優 子	http://www.jasrun.org/
34 日本老年看護学会	中島 紀恵子	204-0024	東京都清瀬市梅園1-2-3 財)日本看護協会看護教育研究 センター内日本老年看護学会事務局	(042)-492-7122	(042)-492-7213	world@med.email.ne.jp	中島 紀恵子	http://www.rounenkango.com/